

中国におけるカトリックの福祉活動に関する現地調査

沈 潔¹⁾

A Field Investigation Report about the Welfare Activities of the Catholicism in China

Shen Jie¹⁾

要約：

唐の時代にカトリックは中国に上陸し始めた。そして、16世紀に欧米諸国資本主義の拡張とともに、中国への進出が一層加速された。アヘン戦争後、中国での布教権を公式に獲得し、教会や福祉施設の建設、宣教活動を活発に行う時期に入った。

1949年、中華人民共和国設立後は、教会及び福祉施設の運営を中国人自身がするようになった。しかし、中国の文化大革命の時期には、すべての活動を中止せざるを得なくなった。1980年代以後、カトリックの宣教活動と福祉活動は回復しつつある。

キーワード：カトリック、福祉、中国

一・中国カトリック教会の宣教活動及び福祉活動について

1. 1949年以前における中国のカトリック教会の状況

中国におけるカトリックの宣教活動は、唐の時代から始まり、景教と呼ばれていたという説があった。13世紀に再度、中国に上陸したが、元朝の覆滅とともに宣教活動は全てなくなった。16世紀、欧米諸国資本主義の拡張とともに、アジアへの進出が一層加速された。それによって、中国への宣教活動は再開され、多くの教会がその時期に建てられた。しかし、布教権が与えられていなかったため、布教活動はかなり制限されていた。

1840年のアヘン戦争の敗北及び天津条約（1858年）の締結によって、各国は布教権を獲得し、教会を建設し、プロテスタント、カトリック教会共に活発な宣教活動時期に入った。カトリック教会においてもイタリア、フランスやドイツの教団などが再び中国に進出し、影響を中国全域に及ぼした。外国勢力が台頭するにつれて、反感も強くなり、1900年の義和団事件、1919年の北京の学生らによる反帝・反封建運動（五四運動）が起こり、

教会活動を含む欧米列強への批判が高まった。

しかし当時、教会によって設立された病院、学校、児童福祉施設は中国人の生活の中でも大きな影響を持っており、大きな役割を果たしてきた。

1949年共産党政権の設立まで、天主教徒は約300万人もいた。

2. 1949年以後における中国のカトリック教会の状況

1949年、中華人民共和国設立後、欧米列強批判の機運が高まった。それは同時に外国色の強いキリスト教への批判ともなり、教育や教会運営にも中国人自身による運営の意識が高まった。1950年代に始まる「三自運動」、いわゆる自治（中国人による行政）、自養（財政的自立）、自伝（中国人による布教）の方針が確立された。この方針に従って、プロテスタント教会及びカトリック教会は、中国人主体の中国基督教三自愛国運動委員会（プロテスタント教会）・中国天主教愛国会（カトリック教会）を組織し、この二つの組織による全キリスト教会の再編・統合を行った。同時にすべての外国人宣教師が海外に追放された。1958年からは

1) 浦和大学総合福祉学部

Faculty of Comprehensive Welfare, Urawa University

ローマ法王の承認を得ずに新司教を任命し始めたので、ローマ法王庁との関係が断絶した。こうした教会への厳しい政治的圧力のもとで、一部の聖職者や信徒は共産党の支配に従わず、潜伏しながら独自に教会活動を行い始めた。彼らは政府による公認教会（官方教会）と区別された非官方教会あるいは「地下教会」と呼ばれることになった。

1962年から1980年までは文化大革命のために宗教への迫害が激しくなり、多くの宣教師は逮捕され、長年の牢屋生活を送ることとなった。1980年に文化大革命のために中止された「全国カトリック教会代表大会」は、教会活動の正常化に向けて開催された。その大会の後、カトリック教会活動は少しずつ発展の時期に入った。

一方、1980年代以後、ローマへの忠実を守る「地下教会」の非官方教会の司教たちは、1989年に独自の司教団を結成した。中国政府は彼らを反動分子として逮捕、監禁等の手段で孤立させ、中国には一つのカトリック教会のみが存在することを示そうとした。「地上」すなわち合法的なカトリック教会も、こうした「地上・地下」という人為的な分裂に対して政府への不満を強く示した。しかし、解決の鍵は中国政府とローマ法王庁との関係回復に関わっている。

2003年まで全国に教会は6000カ所以上のぼり（うち新設700カ所）、信徒は300万人いる（毎年平均9万人が洗礼を受ける）。聖職者は、神父1700人、修女345人（終身）3000人（初学）いる。その他、神学院は12校、在学の修生が3000人以上いる。大規模な修道院は20カ所もある。

福祉活動について、教会が持っている学校、病院及び福祉施設は、1950年初頭、政府に全部押収され、政府の公共施設としての役割を果たしていた。1990年代に教会活動再開の支援策として、政府は特に文化大革命時期に押収された教会の財産を返還する方針を打ち出したが、財産の返還が難航したため、一定の時間がかかると見なされている。しかし、大規模な病院や学校及び天文台などの科学文化施設は、返還しない方針が定められた。また、教会による大規模な病院、学校、福祉施設の経営は基本的に認めない方針であり、これは変わっていない。

現在、各地のカトリック教会では小規模な福祉

活動が少しずつ展開されている。例えば、ハンセン病患者看護サービス、養老院、地域救療活動、救済活動などが日常的に行なわれている。

教会の出版状況について、各地域で公刊された主な雑誌及び出版機関などは以下のようになっている。

- 1) 「中国天主教教団」、「中国天主教愛国会」より刊行した全国雑誌：
『天主教』（双月刊）、『神学研究』、『国際天主教参考資料』など
- 2) 各教区によって刊行した雑誌及び新聞：
『天主教研究資料匯編』（上海）、『信徳』（河北省）、『天光』（北京）など
- 3) 天主教會によって運営した出版社は上海光啓出版社・天主教出版社などある。

3. 1990年代以後におけるカトリック教会の変化

1990年代以後、カトリック教会活動ではいくつかの変化が現れてきた。第一に、司祭の新旧交代の時期に入ったことである。中国国内の政治動乱の影響で長い間、教会活動は強制的に中断させられた。聖職者の育成も中止せざるを得なかった。1980年代以後、教会活動は復活しつつあったが、司教、神父のような聖職者が高齢のためか、活動の復活は妨げられた。聖職者の人材不足のため、1980年代以後に各教区において神学院が立ち上がり、若手聖職者の育成に力が注がれた。また、海外に留学派遣させた優秀な若者もすくなくない。こうした事情で1990年代以後、司祭の新旧交代がいきなり入ってきた。現在、最前線で活躍している神父は、ほとんど30代前後の若手聖職者である。第二に、教会の修復と新築の復活の時期である。長い間、多くの教会は人為的に破壊されたことや何年も修理を怠っていることから、現在に入って教会活動の復活とともに修復と新築の時期に入った。第三に、教会の土着化である。1980年代以後に中国の神学院で教育を受けた新世代の聖職者は、土着化の意識がもっとも強く、中国カトリック教会の土着化をこれまで以上に押し進めた。第四に、教区の再編成である。改革開放政策の実施に従って、中国の地域社会が大きく変わってきた。従来は、教区は、地域社会の拡大につれて再編成しなければならなかった。現在も、その再編成の波が続

いている。

二・カトリック教会の組織

1. 「全国カトリック教会代表大会」

「全国カトリック教会代表大会」は、中国カトリック教会の最高決議機関であり、法改正や人事、解散の権利を持っている。5年ごとに開催することが原則となる。開催時期及びその内容は中国天主教教団と愛国会の双方の常務委員会によって決定される。これまで計7回の大会を開催してきた。

- 1) 第1回全国カトリック教会代表大会（1957年7月）。

この大会において、次のようなことを決定した。その1、カトリックをあらゆる職務に管轄する「中国天主教友愛国会」を成立させた。その2、大司教1名、司教10名、150名の委員が選出された。その3、「中国天主教友愛国会」規程が採択された。

- 2) 第2回全国カトリック教会代表大会（1962年1月）。

この大会において、次のようなことを決定した。その1、ローマ教皇庁の管轄から切り離される方針を明示した。その2、共産党指導のもとで活動展開の方針を明示した。

- 3) 第3回全国カトリック教会代表大会（1980年5月）
- 4) 第4回全国カトリック教会代表大会（1986年11月）
- 5) 第5回全国カトリック教会代表大会（1992年9月）。

この大会において、現行の3つの全国組織を2つに合併することを決定した。つまり、1980年に成立させた「中国天主教教務委員会」を撤廃し、1950年代に形成された「中国天主教教団」、「中国天主教愛国会」の2大組織体制に戻る。

- 6) 第6回全国カトリック教会代表大会（1998年1月）
- 7) 第7回全国カトリック教会代表大会（2004年7月）

2. 「中国天主教教団」（カトリック司教団）

「中国天主教教団」は、司教選出と叙階、教区編

成などをおこなう。対外的には中国教会の代表者となる。

3. 「中国天主教愛国会」

愛国会は聖職者と信徒からなる民間団体である。規程によって司教団と同じレベルの組織であると決められている。

三・中国現地調査の経過

1. 上海のカトリックの概況

1608年にイタリア宣教師は中国人科学者の徐光啓の招聘によって、上海で教会を開き、宣教活動を始めた。

1949年、上海の信徒は14万人前後、教会は384カ所、大学1校、中学20校、病院10カ所となり、天文台、印刷工場、博物館なども持っていた。

現在、上海教区には教会115、養老院3、出版社1、神学院1、修道院1ある。

2. 北京のカトリック教会の概況

1949年までは65もの教会があった。現在、信徒は4万人、教会は110カ所前後ある。

最も有名な天主教会は南堂（1605年にドイツイエズス会による創建）・北堂（1703年創建）・東堂（1655年創建）・西堂（1723年創建）・聖米厄爾教会（1901年フランス神父によって創設され、北京で最後に建設された天主教会）である。

3. 開封のカトリック教会の概況

最初の宣教活動は1613年にイタリア（ミラノ教派）の神父、フランスの神父により始められた。当時、教会を持つことはできなかった。1628年にイエズス会の神父により教会が創設され、信徒がだんだん増えたという。1949年まで、教会23、信徒18000人、外国籍神父、修女16人、中国人神父15人、修女35人、大修士40人となる。当時の施設は、教会学校6カ所、病院7カ所、孤児院1カ所あった。

現在は、教会5、神父6人、修女20人、信徒3000人以上となっている。小規模の養老院2カ所、診療所2カ所ある。

4. 武漢のカトリック教会の概況

1637年ポルトガルのイエズス会の宣教活動が始

まり、その後、イタリア方濟會の力も強くなってきた。二十世紀初頭にアメリカ、フランスの方濟會も入ってきた。1949年までに外国人宣教師は149人、信徒は10万人いた。教会は、学校16校、病院20カ所、孤児院5カ所を運営していた。

現在、花園山天主堂（1866年創設、現在中南神学院の所在地）、天主教上海路堂（1876年フランス教団により創設）は強い影響力を持ち、大勢の信徒を集めた。

四・中国における天主教の資料所蔵及び研究機関の状況

1. 研究機関：

中国社会科学院宗教研究所
北京大学宗教研究所
人民大学宗教研究所
清華大学宗教研究所
上海教育大学宗教文化研究センター
山東大学宗教研究所
南京大学宗教研究所
香港中文大学宗教研究所
香港浸會大学宗教研究センター
復旦大学宗教研究センター
福建大学宗教研究センター
武漢大学宗教研究所
北京天主教と文化研究所
（北京大学・清華大学大学・社会科学院の研究者を中心に成立した民間研究所）

2. 雑誌・出版物

『世界宗教研究』・『世界宗教文化』社会科学院宗教研究所刊行

『中国宗教研究年鑑』宗教文化出版社

『香港天主教年鑑』香港聖神センター刊行

3. 歴史文献資料所蔵

1) 上海市図書館徐家匯蔵書楼

1847年に建築された天主教外国人宣教師たちの専用図書館である。所蔵する書籍は約56万冊、うちにギリシャ語、フランス語、ドイツ語、英語など欧文資料書籍は20万冊である。哲学、歴史、文学、政治、宗教などがある。

ローマ法王庁資料文庫もある。内容の分類は

- K 天主教歴史
- L 宣教史
- M 中国教区資料
- N 東亜各教区資料など

2) 上海市档案馆

所蔵するカトリック及びプロテスタントに関する文献資料は3800冊、年代は1836年～1963年まで。資料の内容は、計画・報告書；各種の規程・規定；会議録；統計調査データ；記念冊；新聞雑誌；個人著作；写真など。中国の資料は中心となる。

3) 武漢華中師範大学教会研究センター

教会大学に関する資料を多く所蔵している。

4) 南京大学図書館

1920年代から50年代まで南京政府と教会の間の外交・交渉資料を多く所蔵している。

5) 香港中文大学中国図書資料センター

19世紀から現代までの中国・香港・マカオの教会活動及び教徒に関する資料が多く所蔵されている。

Abstract

Catholicism began to land on China in the age of Tang. And in 16 centuries, advancement of Catholicism into China was accelerated with the expansion of the Western countries capitalism. Catholicism formally got the propagation right in China, constructed churches and welfare establishments and propagandized, after the Opium War.

In 1949, after establishment of the People's Republic of China, Chinese managed churches and welfare establishments by themselves. But, they must stop all activities in the Chinese Great Cultural Revolution. After 1980's, propaganda activities and welfare activities of Catholicism were recovered.

Key Words: Catholicism, welfare, China